



新鎌ヶ谷は鉄道4線が乗り入れる交通結節点。まさに交差するまち

# 第31回ミニ展示 交差するまちへ2 ～鎌ヶ谷今昔物語～

今年、2016年に開催した平成27年度企画展「交差するまちへ ～鎌ヶ谷交通発展史～」の開催から10年に当たります。この10年間で鎌ヶ谷市は、新京成線連続立体交差事業が完了し、新鎌ヶ谷地区の開発の進展や東京10号線延伸計画用地の土地活用が決まるなどの移り変わりを見せています。

そこで第31回ミニ展示では「交差するまちへ2 ～鎌ヶ谷今昔物語～」と題し、鎌ヶ谷の開発や整備に関する写真や資料を展示します。

また、開催期間中の4月1日にくぬぎ山に本社が置かれていた新京成線が京成松戸線となつてから1年を迎えることを記念して、令和6年度に新京成電鉄から寄贈された資料も併せて展示します。

**期間** 3月21日(土)～5月24日(日)  
 ※ただし、5月4日を除く毎週月曜日と4月30日(木)、5月7日(木)は休館。  
**時間** 9時～17時(入館は16時45分まで)  
**会場** 郷土資料館2階展示室

## ギャラリートークも開催

担当学芸員による展示解説を行います。  
**期日** ①3月21日(土)、②4月3日(金)、  
 ③4月16日(木)、④4月29日(水・祝)、  
 ⑤5月12日(火)  
**時間** いずれも14時～15時  
**定員** 各回7人(3月17日(火)から受け付け・申し込み先着順)  
**申し込み** 郷土資料館☎445-1030

シンポジウムを開催  
**埋もれた家に眠る人骨**  
 根郷貝塚で見つかった  
 5,000年前の廃屋墓のなぞに迫る

昭和 53 年(1978)に発掘調査をした根郷貝塚の一次調査では、廃絶した住居跡に人を埋葬した「廃屋墓」とそこに埋葬された6体の人骨が見つかりました。その6体の人骨を新潟医療福祉大学が中心となり DNA 分析を行った結果、さまざまなことが分かってきました。

このシンポジウムでは、最新の科学分析による成果と縄文時代の埋葬に関する研究成果によ



根郷貝塚の廃屋墓

って根郷貝塚の廃屋墓と埋葬された人骨の謎に迫っていきます。

日時 3月8日(日)10時～16時

場所 きらりホール

定員 500人

申し込み 2月2日(月)～3月

6日(金)までに、文化・スポーツ課☎445-1528、または右の申し込みフォームで



申し込みフォーム

**「骨から見る根郷貝塚」**  
 ～郷土資料館でも関連展示を実施～

このシンポジウムに合わせ、根郷貝塚で出土した骨製品や科学分析の成果に関する収蔵資料を郷土資料館1階の常設展示室で展示します。こちら是非ご覧ください。

期間 2月14日(土)～4月12日(日)

**昔の暮らし体験してみよう!**  
 子どもワークショップを開催

ちょっと昔の鎌ヶ谷はどんな様子だったのでしょう?そして、どんな暮らしをしていたので

**早春の大津川沿いを歩こう**  
 ～春の自然観察会～

春の訪れが待ち遠しい今日このごろ。郷土資料館では一足早く「春の自然観察会」を開催します。

市域の北部に位置する大津川沿いは、自然をよく残していると言われる地域です。この観察会では大津川沿いを散策しながら、野鳥や植物などを観察します。あなたも早春の自然とふれあってみませんか。

日時 2月28日(土)9時30分～12時

(雨天の場合は翌3月1日(日)に順延)

場所 北部公民館に集合(車でのご遠慮ください)



ひと足早く春の息吹を感じてみませんか

定員 25人(2月3日から申し込み先着順)

講師 唐沢孝一さん(NPO法人自然観察大学学長)

会費 50円(保険料)

服装 歩きやすい服・運動靴

申し込み 郷土資料館☎445-1030

しょうか？この「こどもワークショップ」では、昔の写真を見て鎌ケ谷の様子を感じてもらうとともに、「火のしアイロン」や「天秤棒」などの道具を使ったり、梨籠に梨(模型)を実際に詰めてもらうことで、昔の暮らしを体験してもらいます。

**対象** 小学生～中学生(保護者同伴可)

**日時** 2月21日(土) ①10時30分～12時  
②14時～15時30分

**場所** 郷土資料館

**定員** 各回15人(申込先着順)

**参加費** 50円(保険料)

**申し込み** 郷土資料館☎445-1030(2月3日(火)から受け付け)



昔の道具「火のしアイロン」も体験できます

郷土資料館 **この一品** 32  
しよ かご てんびんぼう  
**背負い籠・天秤棒**

鎌ケ谷市の東南部を通る木下街道は、江戸時代の脇往還として鎌ケ谷宿が形成され、人々と共に多くの物資も行き来しました。主に荷物は馬を使って運搬しましたが、人力による運搬も一般的で、主に農作物は次のような道具により運ばれました。

代表的な人力運搬道具として背負い籠があります。市域では「ショイカゴ」と呼ばれま



背負い籠(左)と天秤棒(右)

した。竹で編まれ、目が粗いものと莫菴ごぼのように中が見えない細かなものがあります。籠を背負うためのひもが付けられ、主に農作業で使われました。田畑に行くときは鍬すきや鎌などの農具を入れ、帰りには、収穫した作物も入れて帰りました。村には「籠屋」と言われる家があり、そこに注文して作ってもらったようです。展示資料は細かな編みで、高さ46cm、長径39cm、短径36cmで、上面から見た形状は円形と隅丸方形の中間のような形です。背負う紐は平らになっており、布切れが巻かれ体に食い込まない工夫がされています。なお、籠と背負い紐は荷物の結束などに使われるポリプロピレン製と思われる青い平紐で結ばれていて、そんなに昔でもない時期まで使われていたものと思われます。

天秤棒は、その名のとおり中央部を肩で担ぐ運搬具で、両端に付いた突起に桶や籠の縄を吊り下げて運びました。長さは150cm、両端に向かい細くなり、たわみをもって下に少し反る扁平形状で作成されています。平面は最大径6.5cm、最小径4cm、厚みは最大径4cm、最小計3cmで平面ほどの差異はありません。桶には水や堆肥、籠なら大根など収穫物を双方のバランスを取って運んだようです。昔の梨籠も同様に運びました。

# 史料整理の現場から23 昭和歌謡ショーで建設資金？

今回は、今からちょうど60年前の昭和41年(1966)4月2日に開催と記された「北島三郎ショウ」のちらしをご紹介します。公演の出演者は「北島三郎」「大月みやこ」「三橋健一」他です。ご紹介するまでもなく北島三郎はあの「サブリちゃん」で、前年には「函館の女」が大ヒットし、演歌歌手としての人気を確立していました。大月みやこは現在でも現役の演歌歌手ですが、当時はデビュー2年目の新人でした。他に昭和52年に鎌ヶ谷市が選定した「鎌ヶ谷小唄」を都はるみと共に歌った鎌ヶ谷町(当時、以下同)出身の三橋健一の名も見えます。

この公演を主催したのは、鎌ヶ谷町の北初富青年団でした。鎌ヶ谷町教育委員会・同町社会福祉協議会の後援を受けて松戸市公民会館で12時・15時・18時の1日3回公演のスケジュールが組まれていました。「松戸市公民会館」と記されていますが、これは同39年に開館した「松戸市民会館」のことと思われます。

北初富青年団はちらしの中で、この歌謡ショー開催で得た資金を「青少年の不良化防止」「恵まれない社会施設への援助」等の活動資金として、使用するとしています。ここでいう「恵まれない社会施設」とは、「(自分たちの生活に恵まれる機会のない)社会施設」という意味であることは、ちらしの見出しに「青年会館建設基金協賛公演」の文字が見えることから分かります。

隣接する南初富地区には、かつて旧陸軍の兵舎だった建物が、「公民館」・「公会堂」と呼ばれて使用されており、昭和29年には料理講習会も開催されていました。老朽化により同40年、



「北島三郎ショウ」のちらし

「青年の家」が新築されました(現在、跡地には南初富コミュニティセンターが建っています)。同地区ではみんなの広場や話し合いの場としてこの施設を利用しました。また、青少年だけでなく、地区の集会・老人クラブの集いなど、あらゆる会合にも使用されました。市域の栗野地区にも、千葉県・鎌ヶ谷町の補助金と地元有志の寄付金によって同年、栗野青年館が建設されています。南初富と栗野の青年の家・青年館建設に触発されて「青年会館建設基金」を募ろうとしたことは、充分考えられます。公民館などの公共施設が整備される前、現在のカラオケボックスや、ファミリーレストラン、貸し会議室などの様に、誰でも自由に集まれる場所が当時はほとんどなかったからです。その後、中沢・鎌ヶ谷地区などにも青年館が建設されていきます。

ちらしに話を戻すと、実際に北初富青年会館が建設されたという正確な記録は残っていないため、コンサートが実施されたのかは不明です。ただ、チケット代の一部を資金源として青年会館建設を途に就けようとした発想は、クラウドファンディングにも通じるものと言えるのではないのでしょうか。過去の史料が時空を越え現在と繋がる瞬間を感じながら、これからも史料整理を続けていきたいと思えます。

鎌ヶ谷市郷土資料館だより 第74号 令和8年2月1日発行 編集・発行：鎌ヶ谷市郷土資料館

住所：〒273-0124 鎌ヶ谷市中央1-8-31 電話：047-445-1030

メール：kyodo@city.kamagaya.chiba.jp F A X：047-443-4502

ウェブサイト：http://www.city.kamagaya.chiba.jp/sisetsu/kyoudoshiryokan/index.html

